

保育園での異文化体験エピソード



その31 親の話す外国語への配慮



日本で働いている外国の人たちは、日本語が必ずしも得意というわけではありません。また、流暢に日本語を話す親でも、わが子とのコミュニケーションは母語でしている家庭も多く、保育園の送迎時、言葉を切り替えて話している様子をうかがうことがよくあります。必然的に、子どもはバイリンガルに育っていきます。

問題は、前者のケースです。なかなか保育士との意思疎通がとれず、緊張が高いまま保育園に通う親がいることも珍しくありません。幸い、英語圏の人とは職員に留学経験者がいるので、連絡ノートを英語で書くこともできています。

Yさんが、一日保育参観日に参加したときは、送迎時の簡単な挨拶以上に日本語で保育士と話さざるをえませんでした。写真を撮りに行った園長が英語で話しかけると、ここぞとばかりに職場での様子や将来の夢を語ってくれました。一緒に参加した方が、「今日はいろいろ聞いてもらえて、すっきりしたみたい」と笑っていました。保育園をわが子の生活の場として信頼してもらおうと、親の言葉の問題は双方で努力が必要なのだと改めて感じました。

(藤井 修/京都市・たかつかさ保育園園長)

「地球家族ネットワーク」へのお誘いとエピソードのお願い

保育は、世界中の人と仲よく生活できること（平和）を伝える役割があります。

そこで、国際交流や外国籍の子どもたちの保育について情報交換をしたい方は、「地球家族ネットワーク」に参加してみませんか？！

また、外国籍の子どもを受け入れて、心に残るエピソードがありましたら、ぜひお寄せください。

全私保連 保育国際交流運営委員会

TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879

E-mail : ans@zenshihoren.or.jp